

令和5年10月16日

所属長様

大分県柔道連盟
会長 穴井 隆信
(公印省略)

大分県中学校柔道一年生交流大会の開催について（ご案内）

清秋の候、皆様におかれましてはますますご健勝のこととお喜び申し上げます。

さて、このたび標記大会を、下記の通りに開催する運びとなりました。つきましては、ご多忙のこととは存じますが、大会要項をご参照の上、多くの選手の参加を賜りますようお願い申し上げます。

記

- 1 名称 令和5年度 第1回大分県中学校柔道一年生交流大会
- 2 主催 大分県柔道連盟
- 3 主管 大分県中学校柔道一年生交流大会 実行委員会
- 4 日時 令和5年12月24日（日曜日）

受付	8：30	監督会議	9：15
開始式	9：45	大会開始	10：15
閉会式・表彰	試合終了後		
- 5 会場 サイクルショップコダマ大洲アリーナ 柔道場
- 6 参加費
 - (1) 参加選手一人あたり1,000円の参加費を当日受付にて徴収する。
 - (2) 参加選手には実行委員会により傷害保険に加入する関係で、当日出場しない生徒の参加費については返金しない。

7 参加資格

- (1) 令和5年度全日本柔道連盟に登録している、県内中学校に在学中の1年生とする。
※ただし、下記(2)で示しているように半年以上の修行経験を有する者のみが参加資格を有するので、この点については各所属で徹底をすること。
- (2) 出場選手は、当該校の所属長が出場を認めている者、かつ保護者の了承を得ている者とする。また、半年以上の修行経験を有する者とする。
- (3) 大会参加にあたって参加中のけが等について、実行委員会で応急処置は行うが、その後は一切の責任を負わないとすることに了承している者とする。
- (4) 出場校の監督は、校長・教職員・部活動指導員とし、教職員・部活動指導員以外のコーチは校長の認めた者とする。また、監督は全日本柔道連盟公認指導者資格を有する者とする。

8 参加制限

(1) 団体戦におけるチーム編成

1. 単一校で編成されたチームとする。男女ともに3人制の団体戦とする。
2. 1中学校から上限2チームの参加を可とする。その際、申込書には「〇〇中A」、「〇〇中B」と記載する。なお、1選手1チームのみの登録とする。
3. 監督・コーチ各1名、選手は男女ともに3名、補員2名以内とする。選手2名以上での出場を認める。
4. 選手が3名に満たない場合は先鋒を空とし、残りを体重順に編成する。
5. オーダーは最も体重の重たい者を大将とし、以下体重順に編成すること。
6. 試合ごとのメンバーの入れ替えは自由とするが、体重順に編成すること。
7. 所属選手数の関係で団体戦に出場できない場合に限り、近隣郡市同士による合同チームを特別に認めることもある。その場合は事前に実行委員会の松林(080-5282-2811)まで責任者が必ず連絡をする。

(2) 個人戦の階級区分

1. 男子

①ニューフェイス 軽量級の部

(柔道経験半年以上一年未満かつ66kg級以下の選手が対象)

②ニューフェイス 重量級の部

(柔道経験半年以上一年未満かつ66kg級以上の選手が対象)

③軽々量級の部 (50kg級・55kg級の選手)

④軽量級の部 (60kg級・66kg級の選手)

⑤中量級の部 (73kg級・81kg級の選手)

⑥重量級の部 (90kg級・90kg超級の選手)

2. 女子

①ニューフェイス 軽量級の部

(柔道経験半年以上一年未満かつ52kg級以下の選手が対象)

- ②ニューフェイス 重量級の部
(柔道経験半年以上一年未満かつ 52 kg級以上の選手が対象)
 - ③軽々量級の部 (40 kg級・44 kg級の選手)
 - ④軽量級の部 (48 kg級・52 kg級の選手)
 - ⑤中量級の部 (57 kg級・63 kg級の選手)
 - ⑥重量級の部 (70 kg級・70 kg超級の選手)
3. ニューフェイスの部に適合する選手であっても、通常の軽々量級の部～重量級の部に
出場しても構わない。ただし、技能差等を考慮し、各所属の責任者は慎重に判断する。

9 競技方法

(1) 団体戦

1. 予選リーグを行い、各パートの上位チームによる決勝トーナメント方式で行う。ただし、申込チーム数の関係で、総当たり方式またはトーナメント方式で行う場合もあるが、主催者側に一任することとする。
2. リーグ戦における、順位決定は以下の通りとする。
 - ① チーム間における勝ち、引き分け、負けの率による。
 - ② ①において同等の場合は、勝ち数の合計による。
 - ③ ②において同等の場合は、勝ちの内容により決定する。
 - ④ ③において同等の場合は、負け数の合計による。
 - ⑤ ④において同等の場合は、負けの内容により決定する。
 - ⑥ ⑤において同等の場合は、任意代表1名による代表戦を行い決定する。
3. トーナメント戦の勝敗は、以下の通りとする。
 - ① チーム間における勝ち点の数による。
 - ② ①において同等の場合は、勝ちの内容による。
 - ③ ②において同等の場合は、任意代表1名による代表戦を行い決定する。

(2) 個人戦

1. 男女ともトーナメント方式で行い、勝敗を決定する。得点差がない場合は、時間無制限の延長戦（ゴールデンスコア方式）により決定する。ただし、申込選手数の関係で、総当たり方式で行う場合もあるが、主催者側に一任することとする。

10 競技規則

- (1) 国際柔道連盟試合審判規定（2022年4月1日施行の新ルール）及び国内大会における「少年大会特別規定」、合わせて本大会の申し合わせ事項による。
 - ※2023年6月1日に発出された「国際柔道連盟試合審判規程の解釈変更に伴う国内大会の適用について」を適用する。
 - ※第54回全国中学校柔道大会申し合わせ事項（団体戦予選リーグの内容が同等の場合の決勝トーナメント出場チームの決定方法、代表戦について）を適用する。

1.3 その他

- (1) 柔道衣（ゼッケンを含む）は、全日本柔道連盟柔道衣規格に合格した柔道衣（上衣・下ばき・帯）を着用する。（IJF：赤粋・全柔連：赤番号）
- (2) 脳震盪の対応について指導者および選手は下記事項を遵守する。
 1. 大会1か月前以内に脳震盪を受傷した者は、脳神経外科の診察・出場許可を得る。
 2. 大会中、脳震盪を受傷した者は、継続して当該大会に出場することは不可とする。
 3. 練習再開については、脳神経外科の診察・許可を得る。
 4. 当該選手の指導者は大会事務局および全日本柔道連盟に対し、書面により事故報告書を提出する。
- (3) 皮膚真菌症（トングランス感染症）について、発症の有無を各所属の責任において必ず確認する。感染が疑わしい、もしくは感染が判明した選手については、迅速に医療機関において適切な治療を受けること。もし、出場選手に皮膚真菌症の感染が発覚した場合は、本大会への出場ができない場合もある。
- (4) 全日本柔道連盟「試合場におけるコーチの振る舞いについて」を適用する。
- (5) 団体戦、個人戦ともに計量は実施しないが、選手の安全面や競技上の公平性を確保するため、各所属において、申込書には正確な体重を記載する。